

指定自動車教習所卒業者の意識等に関する調査（昭和 54 年度）

今後の初心運転者教育の充実を図るための資料を得ることを目的として、指定自動車教習所における教育について、卒業した者の側から見た意識を調査した。

全国 8 道県から 5,822 人（男性 2,210 人、女性 3,612 人）を対象に、学科試験時にアンケートを行った。その結果、教習所を選ぶ理由は「自宅・勤務先に近い」が 56.1%を占め、「友人・家族にすすめられた」「交通の便が良い」「教習員の教え方が良い」と続く。全体の 96.5%が性格的適性検査を受け、そのほとんどが結果を教えてもらっており、63.6%が検査の結果を活用した指導を受けたとしている。

学科教習に関しては、半数近くが技能教習の第 3 段階で終了し、第 4 段階までに 82.4%が終了していた。7 割以上が毎日学科教習を受け、34.9%が 1 日に 3 時限受けたことがあるとしている。仮免許の学科試験は 1 回目で合格した者が 75.8%に達している。学科教習 30 時限について、7 割近くが「今ぐらいで良い」としている。最も難しいと思った科目は、車の構造関係が 59.9%を占め、次いで交通法令が 34.7%となっている。学科教習に使われている教材は、教本、映画のほか、実車、スライドが多い。総じて学科指導の教え方に満足しているが、「わかりにくい」「良く聞き取れない」との意見もあった。

技能教習に関しては、教習を受けた時間帯は午前中が 3 分の 1、午後（5 時まで）と午後 5～7 時がそれぞれ 4 分の 1 となっている。予約方法は、毎日予約が 40.3%、完全予約が 32.9%、定時制が 23.2%となっている。教習間隔は毎日が 80.3%を占めるが、教習所の都合で教習間隔が 4 日以上あいた者が 9.6%おり、94.7%の者は毎日受けるのが適当であるとしている。1 日の時限数は 73.7%の者が 2 時限が適当であるとしている。基準時限の長さについて、第 1 段階の 4 時限を「適当」とする者が 54.3%、「もう少し長く」が 37.1%であり、第 2 段階の 4 時限についてもほぼ同様であるが、第 3 段階の 9 時限、第 4 段階の 10 時限については、「適当」とする者が更に多くなっている。72.4%が模擬運転装置による教習を受けており、うち 7 割近くが第 1 段階の 2 時限までの教習を適当であるとしている。71.1%が無線装置による教習を受けており、うち 4 分の 3 が 3 時限までの教習を適当であるとしている。

技能指導員の教え方について、「よかった」が 48.8%に達し、「まあまあ」を含めると 90.1%が評価している。「よかった」とする理由は、わかりやすい（73.6%）、熱心（60.0%）、親切（59.7%）などである。一方、教え方がまちまち、言語・態度が悪い等の意見もあった。また、不親切な教え方をされたことがあるとする者が 46.0%あり、教習所に不満を持ったことのある者は 33.7%あった（表）。不満の理由は「希望する時に教習が受けられない」が半数近くあり、次いで「技能指導員の質が悪い」「教習車両が悪い」「窓口の対応が悪い」が多かった。

表 教習所に不満をもったことがあるかについての回答

職業	会社員	公務員	団体職員	自営業	農林漁業	自由業	学生	主婦	その他	無職	計
ある	485	114	34	54	13	23	593	361	128	157	1,962(33.7)
ない	958	176	62	137	62	78	839	930	265	320	3,827(65.7)
計(注)	1,447	292	97	196	78	102	1,493	1,304	396	477	5,822(100)

3 人に 1 人は教習所に対して不満をもっており、特に学生と公務員に多く、農林漁業には少ない。

(注) 計には無回答を含む。